



くすり箱

第4回目のテーマは、
“薬とアルコール”“薬とタバコ”についての紹介です。

“薬とアルコール”の飲み合わせ

お酒(アルコール)は「百薬の長」といわれ、とても身近な飲み物ですが、薬の作用に影響を与えることがあるので注意が必要です。今回は薬がアルコールの影響を受けると考えられる事例をいくつか紹介します。



* アルコールと睡眠薬、抗不安薬

アルコールがこれらの成分の代謝を阻害して鎮静効果、睡眠作用を増強させることがあります。

代表例: ハルシオン、レンドルミン、セルシンなど

* アルコールと糖尿病薬

インスリンの作用が増強され、薬の効果が効きすぎた時に起きる低血糖状態になってしまふことがあります。

代表例: オイグルコン、グリミクロン、アマリールなど

* アルコールと高血圧治療薬

アルコールによる血管拡張作用と薬の作用により血圧降下作用が増強され、過度の血圧低下を引き起こすことがあります。

代表例: アダラート、レニベースなど

* アルコールと胃潰瘍治療薬

薬がアルコールの分解を妨げ血液中のアルコール濃度を上げてしまうためいつもの量でも酔いが強くなってしまふことがあります。

代表例: ザンタックなど

* アルコールとアセトアミノフェン

解熱鎮痛薬のアセトアミノフェンは代謝が促進され肝毒性をもつ代謝産物に変わり肝障害を引き起こすことがあります。

* 栄養ドリンク剤にもアルコールが含まれていることがあるので、薬と一緒に飲んだ場合に思わぬ相互作用が起きる可能性があるため注意してください。アルコールについては、酒類以外にも市販のドリンク剤などにアルコール量として一本あたり 1.6g を含むものもあり、ビールに換算するとコップ半分くらいに相当します。アルコールがまったく飲めない人は特に注意が必要です。薬を服用中であればアルコールの摂取は控えるか中止するほうが望ましいです。

薬とタバコ



タバコに含まれる主成分(ニコチン)は、肝臓で薬を代謝する酵素を誘導するため、薬の代謝が促進され、薬の作用が弱くなってしまうと言われています。またニコチン以外にもヤニに含まれる成分により効果が変化してしまう薬もあります。

* タバコと糖尿病薬

ニコチンにより血糖値が上昇するためインスリンが多く必要になってしまいます。

* タバコとβ-遮断薬(交感神経という神経の末梢の一部を遮断する薬)

ニコチンは高血圧や狭心症に用いられるβ-遮断薬と反対の作用を示すため、薬の効果が弱くなり薬の増量が必要となってしまいます。

代表例:インデラル

* タバコとテオフィリン(気管支拡張薬)

喫煙により薬の代謝が促進されてしまうため効果が減弱してしまうことがあります。

代表例:テオドール

いくつかの例をあげましたが影響が考えられる薬剤は他にもたくさんあります。薬の効果を最大限に発揮するため禁煙に挑戦してみてもいいかがでしょうか？

禁煙補助薬

* 経皮吸収剤であるニコチネル TTS

昨年4月から保険診療が可能となった禁煙補助薬を使用する禁煙治療を紹介します。禁煙補助薬の例として皮膚に貼る経皮吸収剤であるニコチネル TTS があります。この薬剤はニコチンを皮膚から吸収させることにより、禁煙時のニコチン離脱状態を和らげる働きをしてくれます。しかし貼布時にも上記の薬との併用には注意が必要です。



< 実物大とは異なります >

* ニコレット(ニコチンガム)

市販されているニコチンを含むガムです。お菓子のガムとは、少し噛み方も違いますし、使い方も決められた方法があります。使い方は、購入する薬局で薬剤師に確認して下さい。

今回は、“患者さんからの質問より”のテーマで、2007年6月発行予定です。